

# くらしの中の布

Folk Art Gallery Exhibition 27

まとう Wearing

つつむ Wrapping

Textiles in Everyday Life

たたむ Folding



風呂敷〔広島・竹原市〕

2019年11月25日(月) - 12月21日(土) 10:00-17:00 日曜休館

武蔵野美術大学13号館2階 民俗資料室ギャラリー 入場料無料

主催 武蔵野美術大学 美術館・図書館

MU M&L

# くらしの中の布 Textiles in Everyday Life

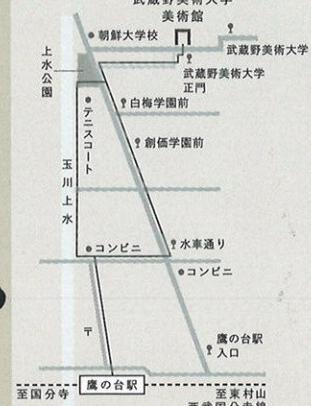
まとう Wearing つづむ Wrapping たたむ Folding

袋  
[石川・珠洲郡若山村(現・珠洲市)]マイワイギ(万祝着)  
[東京・港区]

民俗資料室は、全国各地から収集した多種多様な布製品を数多く所蔵しております。本展では、布の「まとう」「つづむ」「たたむ」といった機能に着目し、現在のデザインにつながる模様にも触れながら、50点以上の資料を通して、昔の人々の知恵や工夫などを紹介します。布は衣服や風呂敷などに用いられ、不要な時はたたんで収納することができる便利な道具として、私たちのくらしの中で活用されてきました。また、形を変えながら再利用していくのも布の特徴の一つです。昔の人々は一枚の布を長く大切に使用していました。例えば一着の着物は、手拭い、端切れとして用いられ、最後はボロ(檻襪)となり、ものを最大限に活かす工夫がみられます。その一方で、今日ではボロを貼り合わせて作られた布製品は、無名の人々が手がけた一つの工芸品としても着目されています。

今回展示する「袋」は、不要になった色や柄の異なる様々なボロ布を貼り合わせて作られています。また「消防用の防火頭巾」は、綿布を重ね合わせて一面に細かく刺し縫いした刺子です。そして、大漁を祝つて作られた着物である「マイワイギ(万祝着)」には、鶴をはじめとした縁起物が多く描かれています。このほか、糸を紡ぐための糸車、布を織るための機織り機など、布の製作工程やその変遷についても紹介します。

本展は、これらの布製品を通して、昔から受け継がれてきた伝統や技術を再発見する機会となるでしょう。

木綿見本帳  
[京都・京都市]消防用の防火頭巾  
[東京・新宿区]

<交通アクセス>  
西武国分寺線「鷺の台」駅下車、徒歩18分  
・JR中央線「国分寺」駅北口徒歩3分  
「国分寺駅北入口」より  
西武バス「武藏野美術大学」行き  
または「小平営業所」行きに乗車、「武藏野美術大学正門」下車  
(バス所要時間 約20分)  
・JR中央線「立川」駅北口(5番乗り場)より  
立川バス「武藏野美術大学」行きに乗車、「武藏野美術大学」下車  
(バス所要時間 約25分)  
※お車でのご来場はご遠慮ください。

帯  
[新潟・佐渡郡相川町(現・佐渡市)]染め見本  
[東京・武藏野市]風呂敷  
[広島・竹原市]